中国横断自動車道尾道松江線建設事業に係る
備北地域埋蔵文化財発掘調査報告会

― 資　料 ―

瀬戸越南古墳調査風景

平成２０年３月１日（土）１３時～１６時３０分
広島県立歴史民俗資料館研修室（三次市小田幸町 122）

財団法人広島県教育事業団
広島県立歴史民俗資料館

日　　程

時　　間	内　　容
13:00～13:05	**開会行事** 挨拶　向田　裕始 広島県立歴史民俗資料館　館長 **事務連絡**
13:05～13:25	**事業概要** 篠原　芳秀 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　室長
13:25～13:45	**報告Ⅰ　段遺跡（第２次）・和知白鳥遺跡（第２次）** 講師　山田　繁樹 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
13:45～14:05	**報告Ⅱ　下矢井南第３～５号古墳** 講師　渡邊　昭人 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
14:05～14:35	**報告Ⅲ　宮の本第２０～２６・３０・３１号古墳** 講師　梅本　健治 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　主任調査研究員
14:35～14:55	**報告Ⅳ　片野中山第９～１２号古墳，右谷遺跡** 講師　辻　満久 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
14:55～15:05	**休　憩**
15:05～15:25	**報告Ⅴ　曲第２号古墳** 講師　岩本　芳幸 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
15:25～15:45	**報告Ⅵ　瀬戸越南古墳** 講師　新井　真吾 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
15:45～16:05	**報告Ⅶ　稲干場第２～４・９号古墳** 講師　島田　朋之 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　調査研究員
16:05～16:25	**報告Ⅷ　大平遺跡** 講師　鍜治　益生 （財）広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室　主任調査研究員
16:25～16:30	**閉会行事** 挨拶　篠原　芳秀

事業概要・資料目次

■調査遺跡一覧

番号	名称	所在地	時代・種別	調査期間	資料頁
1	段（だん）遺跡（第２次）	三次市 四拾貫町	旧石器時代 包含地	H19.9.25～ H19.12.21	5
2	和知白鳥（わちしらとり）遺跡（第２次）	三次市 和知町	旧石器時代 包含地	H19.9.25～ H19.12.21	7
3	下矢井南（しもやいみなみ）第３～５号古墳	三次市 吉舎町	古墳時代 古墳	H19.10.9～ H19.12.21	9
4	宮の本（みやもと）第２０～２６・３０・３１号古墳	三次市 向江田町	古墳時代 古墳	H19.4.16～ H19.12.21	１１
5	片野中山（かたのなかやま）第９～１２号古墳	三次市 吉舎町	古墳時代 古墳	H19.4.16～ H19.8.8	１３
6	右谷（みぎたに）遺跡	三次市 吉舎町	古墳～平安時代 集落・墓	H19.4.16～ H19.8.8	１５
7	曲（まがり）第２号古墳	庄原市 口和町	古墳時代 古墳	H19.7.2～ H19.9.21	１７
8	瀬戸越南（せとごえみなみ）古墳	三次市 向江田町	古墳時代 古墳	H19.6.25～ H19.8.10	１９
9	稲干場（いなほしば）第２～４・９号古墳	庄原市 口和町	古墳時代 古墳	H19.10.9～ H19.12.21	２１
10	上陣（かみじん）遺跡	三次市 向江田町	古墳時代 集落跡	H19.7.9～ H19.8.31	２４
11	大平（おおひら）遺跡	三次市 後山町	古墳時代 集落跡	H19.6.25～ H19.10.5	２５
12	若見迫（わかみさこ）遺跡	三次市 三良坂町	古代 集落跡	H19.4.16～ H19.5.25	２７

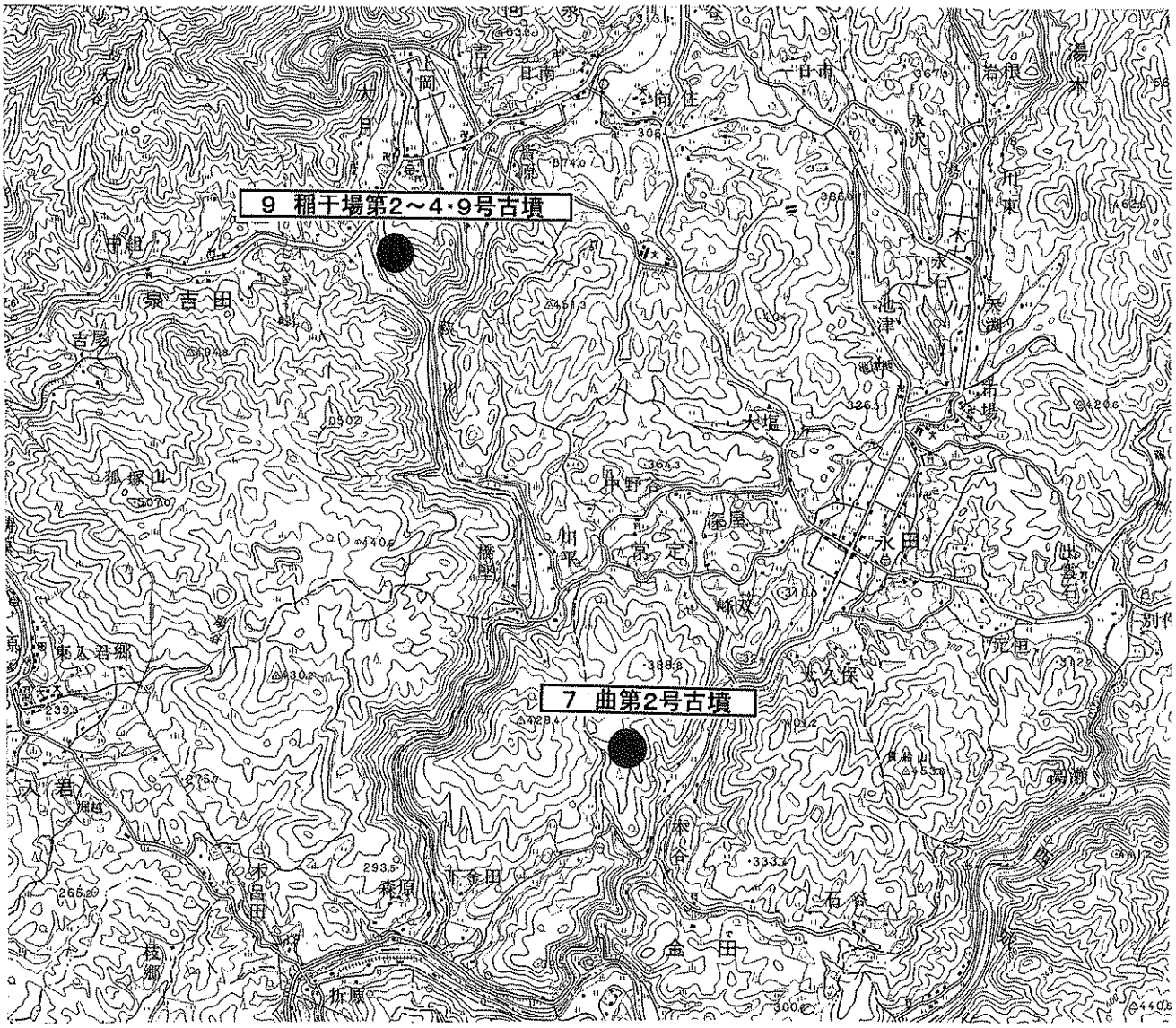
年　　表

時代		年代	項目
旧石器時代	前期	3万5千年前	石斧・ナイフ形石器など日本固有の旧石器文化成立
	中期		○下本谷遺跡・宮風呂遺跡・松ケ迫A地点遺跡
	後期		**●段遺跡・和知白鳥遺跡**
			○下山遺跡・佐田谷墳墓群下層遺跡
			○酒屋高塚
縄文時代	草創期	1万3千年前	土器や弓矢の使用が始まる
			○帝釈峡馬渡遺跡
	早期	9千年前	貝塚の形成
			○松ケ迫B地点遺跡・下本谷遺跡
			○久代東山遺跡・建釜遺跡
	前期	6千年前	気候が温暖化・海面が上昇し漁撈が発達する
		5千年前	東日本に大規模な集落ができる
	中期		○陽内遺跡
		4千年前	西日本の平野部に集落が進出
	後期		○元国遺跡
	晩期	3千年前	一部で水稲耕作が始まる
			○帝釈名越岩陰遺跡
弥生時代	早期	BC.400	本格的な水稲耕作が西日本に広がる
			○高蜂遺跡・岡山A地点遺跡
	前期	BC.200	日本固有の銅鐸などの青銅器が鋳造される
			○大膳遺跡・塩町遺跡・四拾貫小原遺跡
	中期	BC.50	○三次盆地で四隅突出型墳丘墓がつくられる
			○陣山墳墓群・花園遺跡・佐田谷遺跡
			●大平遺跡
	後期	57	倭の奴国王が中国(後漢)へ使いを送る
			倭国大乱
		239	邪馬台国の卑弥呼が中国(魏)に使いを送る
			○矢谷古墳・和田原遺跡群
古墳時代	前期	250	前方後円墳が各地につくられる
			○大迫山第1号古墳・岩脇古墳
	中期	400	**●下矢井南第4号古墳・宮の本第24号古墳**
			鉄製武器・武具が量産化され、巨大古墳がつくられる
			○旧寺第1号古墳・糸井大塚古墳・浄楽寺・七ツ塚古墳群・善法寺古墳
			○段遺跡・和知白鳥遺跡
			●曲第2号古墳
			○酒屋高塚古墳・三玉大塚古墳・緑岩古墳
	後期	500	**●片野中山第9号古墳・稲干場第4号古墳・瀬戸越南古墳・上陣遺跡**
			須恵器が普及し、横穴式古墳がつくられる
			○犬塚第1号古墳・唐櫃古墳・松ケ迫遺跡群
			○八鳥塚谷横穴群

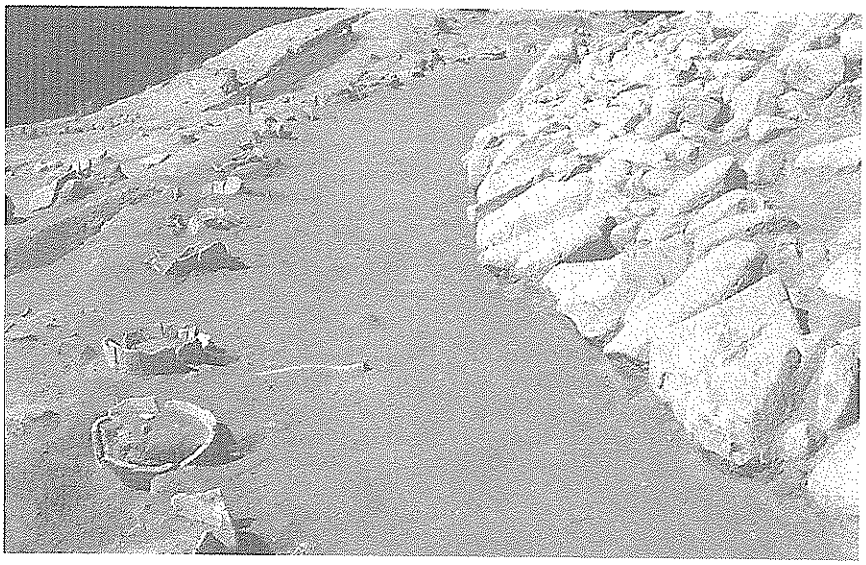
時代	年号	西暦	項目
飛鳥		604	聖徳太子、十七条の憲法制定
	大化元	645	大化改新
			○和知白鳥第1～3号古墳
		663	白村江の戦い
		672	壬申の乱
			○三谷寺建立(寺町廃寺跡)
		694	藤原京遷都
			○伝神福寺跡・上山手廃寺跡・寺戸廃寺跡建立
			●右谷遺跡
	大宝元	701	大宝律令制定
奈良	和銅3	710	平城京遷都
			○下本谷遺跡・幸利遺跡・大当瓦窯跡
	天平5	733	三次郡名初見(「出雲国風土記」)
	天平勝宝4	752	東大寺大仏開眼供養
平安	延暦13	794	平安京遷都
			●大平遺跡・若見迫遺跡

三次市史第Ⅲ巻を一部改変

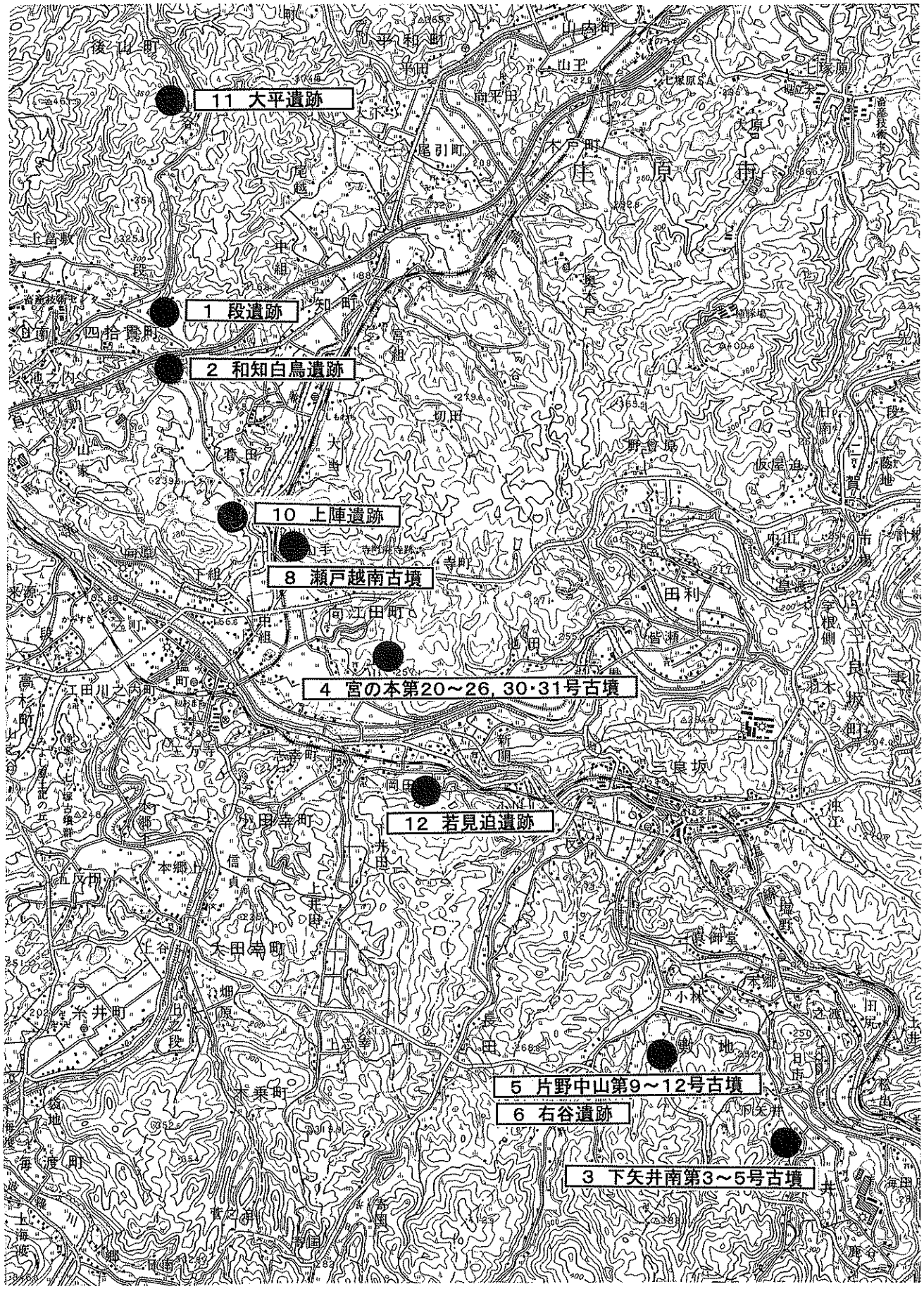
○:三次市・庄原市内の遺跡　　●:今回報告遺跡



第１図　発掘調査遺跡位置図（１：50，000 地形図「上布野」）



宮の本第２４号古墳葺石・埴輪列



第２図　発掘調査遺跡位置図（１：50，000 地形図「三次」）

１　段遺跡（第２次調査）

所　在　地　三次市四拾貫町

位置と環境　段遺跡は，三次市街から北東に約 5.2km，標高 333mの山塊が北側に迫る平坦な台地上にあり，周辺の水田からの比高は約 10mで，東西両側は谷状の地形となっている。遺跡の現状は，一部を山林とし，それを取り囲むように畑が広がっていた。

遺構の概要　調査は，昨年度の調査で旧石器時代の遺物及び広域降下火山灰であるＡＴ（約 25,000 年前の姶良丹沢火山灰）の存在が確認できたＡ調査区の丘陵平坦部を対象として実施した。調査区を国土座標に沿って軸線を決定し，この軸線を基線として２×２ｍのグリッドを設定し，南東側の調査区から時計回りに順次人力による発掘を行った。設定したグリッドは出土遺物の層位を確認するために市松模様に互い違いに掘り下げ，また，各グリッドを１×１ｍの４区画に再分割し，基本的には深さ５～10cm を目安として小区画を掘り下げ，引き続き隣接する小区画を同様に掘り下げ，グリッド区画全体として面的に平らになるように掘り下げを行った。発掘は火山灰層下に広がる池田降下軽石層の上面まで実施し，一部についてはこの降下軽石層の下の古土壌まで掘り下げを行った。

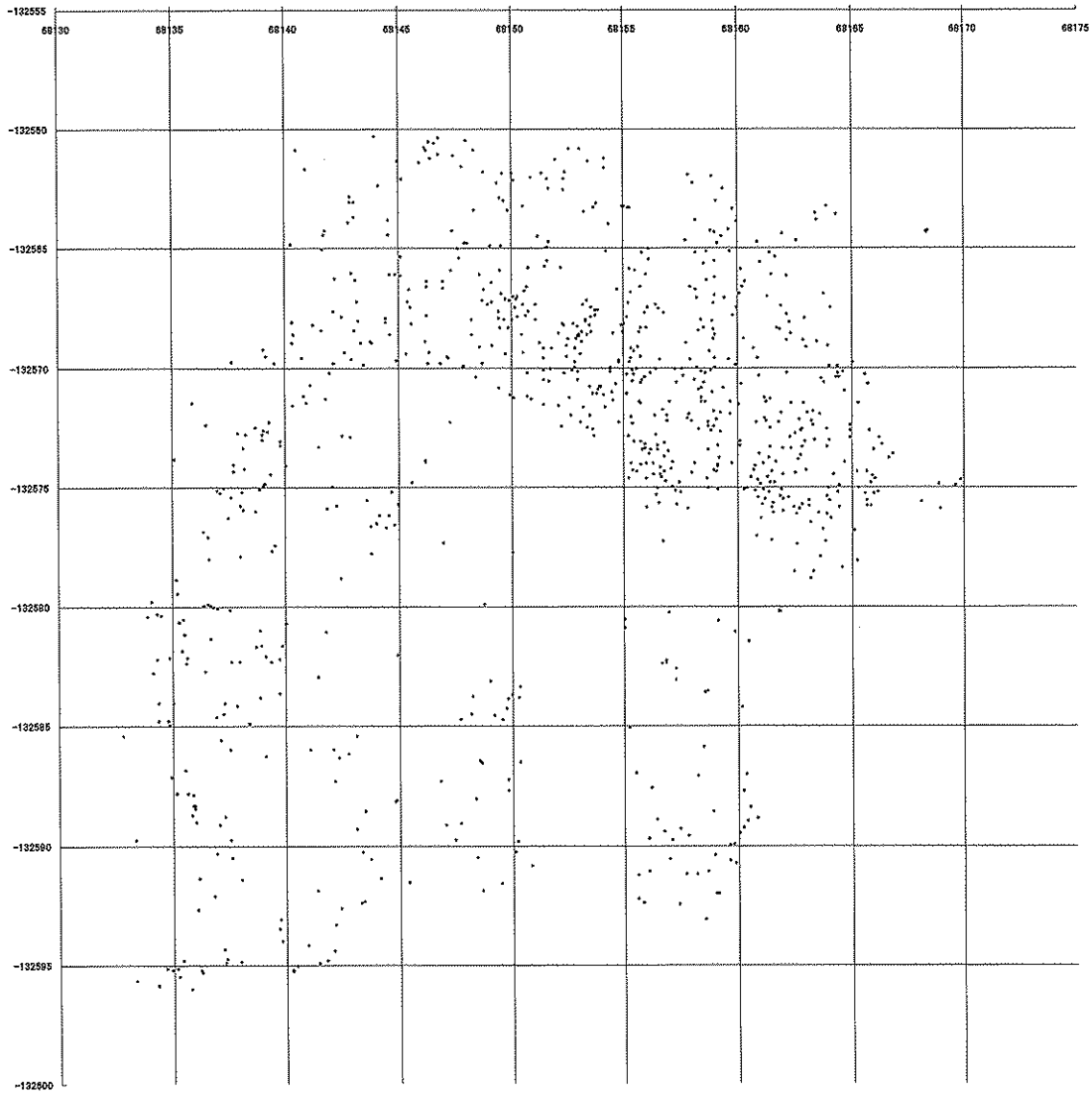
調査の結果，昨年度に引き続いて石器石材の集中箇所を確認した。礫を含めると調査区の北側は南側に比べると集中密度が高い。また，調査区中央部分は試掘坑による空白部分の存在を勘案する必要はあるが，遺物の出土は希薄な状況である。

以上のことから，石器石材の分布状況は調査区の中央部分が空白状になる楕円形を呈していると言えそうで，また，個々の石材と同じ岩質をもつ石材の分布状況について検討していけば，これらの漠然と広がる分布にもさらなる小分布の存在を指摘できる可能性はある。

遺物の概要　出土遺物には，流紋岩やチャートの石核，水晶・石英や黒曜石の剥片，流紋岩製の加工痕のある石器，局部磨製石斧の残片，台石や礫などがある。これらの遺物はＡＴより下層の比較的柔らかい火山灰層から出土しており，柔らかい火山灰層の下にある少し褐色の濃い堅い火山灰層からは礫が多く出土している。

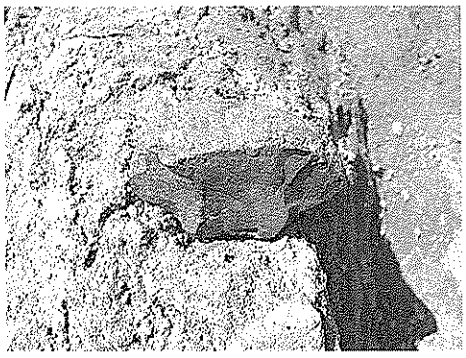
ま　と　め　今回の調査は，前年度確認した旧石器時代の石器石材集中部４か所の状況をふまえて，面的な石器石材の分布と出土層位の把握を主たる目的として実施した。結果，前年度確認した石器石材集中箇所は楕円形に広がるより大きな石器石材分布の一部であったことが判明した。

遺物はＡＴより下層からの出土で，大まかには柔らかい火山灰層と堅い火山灰層に分かれる。遺物の年代についてはＡＴよりも古くこの火山灰層の下層にある池田降下軽石層よりも新しい年代を付与できる。出土遺物の形式学的知見からすれば後期旧石器文化の内でもやや古相を呈しているようである。



第３図　段遺跡出土遺物分布図

▲　段遺跡調査風景



▲　段遺跡石核出土状況

2　和知白鳥遺跡（第２次調査）

所　在　地　三次市和知町白鳥

位置と環境　和知白鳥遺跡は，庄原市から南流する国兼川と馬洗川が合流する付近から北西に延びる狭長な谷に面した最高所の標高が約 220m，水田からの比高は 25～30mの南北方向に延びている低丘陵上に立地している。

遺構の概要　今年度の調査は，東西を池田降下軽石層が確認できる範囲，南北は試掘によって剥片が出土したトレンチからそれぞれ 10mの幅を調査範囲（960 ㎡）とした。

石器及び剥片が集中して出土する範囲を５か所確認し，台石・ハンマーストーン・剥片がまとまって出土した。

遺物の概要　№.１のグループは地元産の石材の原石及び剥片が中心となっている。他に水晶・黒曜石の剥片が少量，玉髄の石核が１点出土している。

№.２のグループは地元産石材剥片も含むが，水晶・黒曜石・玉髄の剥片がほかのグループより多い。

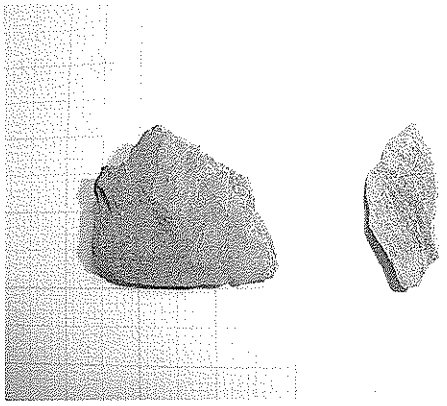
№.３のグループはＪ７ａ区から黒曜石製の両側縁を加工した小型のナイフ形石器と流紋岩質系の石材と思われる台形石器がそれぞれ１点出土した。その他，水晶の石核が出土している。

№.４のグループはＩ７ｃ・Ｉ８ｄ区から水晶の剥片がグループでは最多の約 30 点出土しており，水晶製の石器製作を行う際の中心部であったと考えられる。

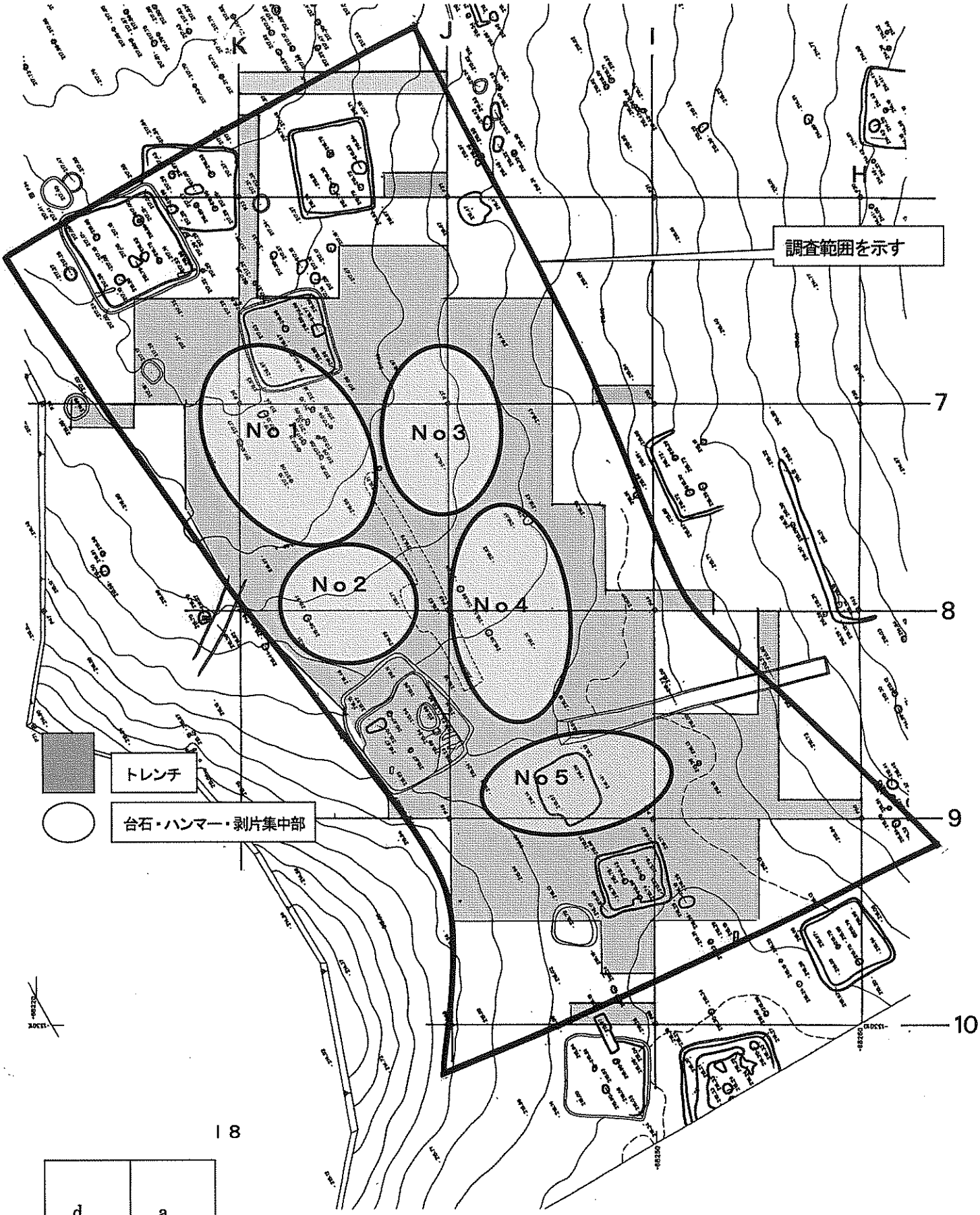
№.５は№.１と同様に地元産石材の原石と剥片が中心となるが，水晶の剥片は№.１より多く，黒曜石・玉髄の剥片はみられない。

ま　と　め　これらの石器及び剥片は，昨年度実施した土壌分析によるＡＴ層（約 25,000 年前の姶良丹沢火山灰）より下層，池田降下軽石層より上層の間層から出土している。石器の形式と使用石材の組成から後期旧石器では最古となる可能性が考えられている下本谷遺跡より新しいと思われる。今回の調査は，県内では調査例の少ない旧石器時代を対象とした調査であった。柱穴や土坑などの遺構は確認できなかったが出土した石核・ハンマーストーン・剥片などから石器を製作又は修理していた場所と考えられる。剥片の接合関係や石材の産地調査は今後となるが，旧石器時代を研究進める上で貴重な資料を得たといえよう。

№.５グループの剥片出土状況



№.３グループから出土した台形石器とナイフ形石器



18

d	a
c	b

北東隅をグリッド番号として１０mの区画を設定。

10mを４分割し，時計回りにａ・ｂ・ｃ・ｄの記号をあたえる。

第４図　和知白鳥遺跡トレンチ配置図（１：250）

3　下矢井南第３～５号古墳

所　在　地　三次市吉舎町敷地

位置と環境　下矢井南第３～５号古墳は馬洗川の小支流矢井川の西岸に位置する丘陵の尾根上に立地する（標高270m前後，水田面からの比高約50m）。

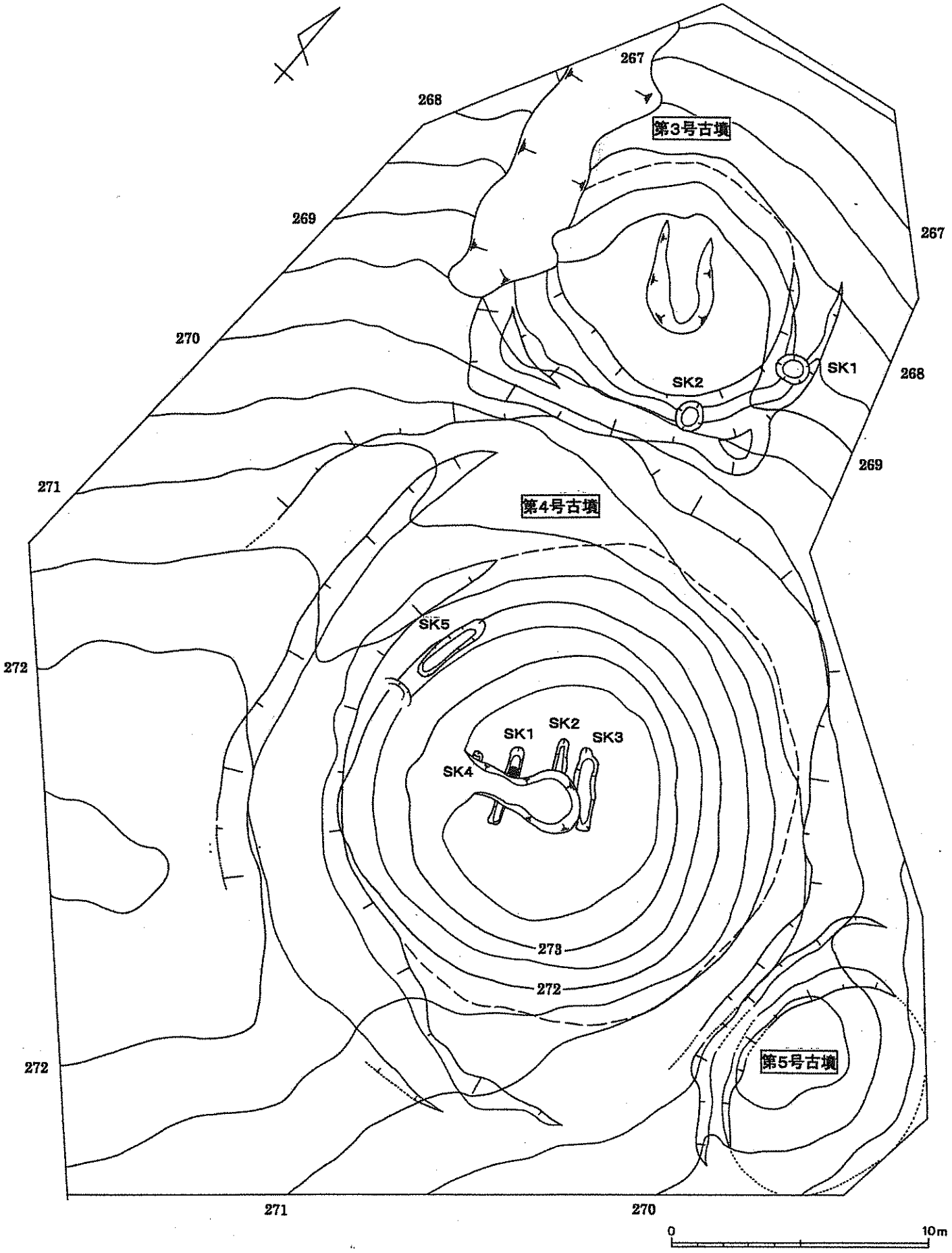
遺構の概要　北端に位置する第３号古墳は径９ｍ，高さ1.5mの円墳で，幅約2.7mの周溝が廻る。周溝は南側を中心にほぼ半周ほど廻り，西側は後世のかく乱により壊される。東側周溝内において土坑を２基（ＳＫ１・２）検出した。ＳＫ１は1.4m×0.9mの平面楕円形の土坑で，深さは48㎝である。ＳＫ２は1.0m×0.7mの平面不整形の土坑で，深さは26㎝である。いずれも埋土は炭化物を多量に含んでいた。墳丘中央は後世のかく乱により大きく壊されており，埋葬施設は確認できなかった。

第３号古墳の南約４ｍに位置する第４号古墳は径18m，高さ２～３ｍの円墳である。墳丘周辺に平坦面をつくる。幅約５ｍの周溝が西側を中心に１／３周ほど廻るが，深さが50㎝程度と浅い。墳丘中央は後世のかく乱により大きく壊される。埋葬施設は５基（ＳＫ１～５）を確認した。ＳＫ１～４は墳丘頂部から約50㎝低い位置で検出された。東西にほぼ並行して造られ，ＳＫ２・３は墳丘頂部のほぼ中央に，ＳＫ１・４は墳丘頂部の西側に位置する。ＳＫ１は中央部を，ＳＫ２は中央から南側にかけて，ＳＫ３は南西上端部分を後世のかく乱により壊される。ＳＫ１・３の規模は長さ約３ｍ，幅約0.5mである。ＳＫ１～３はいずれも割竹形木棺で，木棺上部を粘土で被覆していた。ＳＫ４は墳丘掘削中に土層断面により確認した。割竹形木棺で粘土の被覆は認められない。ＳＫ５は墳丘掘削後に墳丘西裾で確認した。ＳＫ５の規模は長さ3.1m，幅0.75mで，その規模から割竹形木棺と思われるが粘土の被覆は認められない。

東端に位置する第５号古墳は径7.5～9.5m，高さ0.5mの円墳である。墳丘の平面形が楕円形で，墳丘東側の墳裾は不明瞭である。墳頂部が西に偏っていることから墳丘東側の盛土が流失したと考えられる。幅1.3～2.5mの周溝が墳丘西側を廻る。埋葬施設は検出できなかった。埋葬施設も盛土とともに流失した可能性がある。

遺物の概要　第３号古墳の周溝底面から鉄斧が１点出土した。第４号古墳の墳丘頂部で筒形石製品と土師器片が出土した。なお筒形石製品はＳＫ１より50㎝高い位置での出土である。ＳＫ１では鉄刀子２，竪櫛１，ＳＫ２では鉄刀子１，鉄剣２，ＳＫ３では鉄鎌１，鉄斧２，鉄刀子１，鉄剣１，竪櫛１，ＳＫ４では竪櫛１が出土した。ＳＫ５から遺物は出土していない。また後世のかく乱土坑から鉄斧２，鉄刀１，鉄剣１が出土し，周溝やその周辺から土師器片や須恵器片が出土した。第５号古墳の周溝から土師器片が出土した。

ま　と　め　築造時期は立地や出土遺物などから第４号古墳がもっとも古く，４世紀末から５世紀初頭と考えられる。その後第３・５号古墳が築造されたと思われる。第４号古墳の周辺から須恵器片が出土していることから，第３・５号古墳の築造時期は６世紀まで時期が下る可能性がある。なお第３号古墳と第５号古墳の先後関係は不明である。本古墳の立地する吉舎町北部は，古墳が分布する密度の高い地区で知られている。今回の調査は，この地域における古墳群や４世紀末から５世紀初頭の墓制を知る上で貴重な資料を提供するものである。



第５図　下矢井南第３～５号古墳墳丘測量図（S＝１：200，●は筒形石製品出土位置）

4　宮の本第20～26・31・32号古墳

所　在　地　三次市向江田町宮本

位置と環境　宮の本第20～26・31・32号古墳は三次市北東部の江の川支流馬洗川北岸に位置し，東西に延びる丘陵上に立地する（標高239～248m，水田面からの比高約50m）。

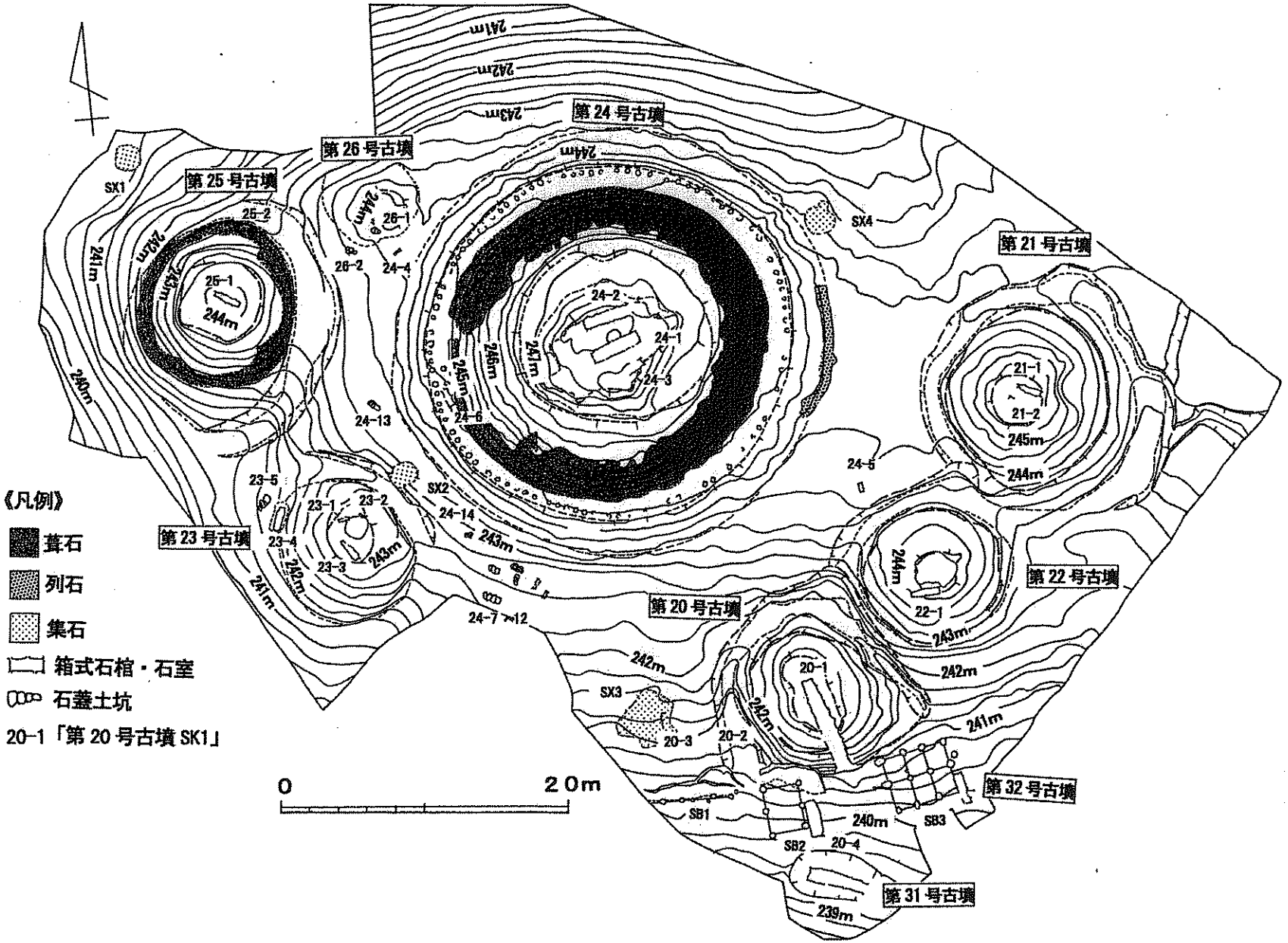
遺構の概要　9基のうち，第20～26号古墳は円墳，第31・32号古墳の墳丘は不明である。最大規模の第24号古墳の西～南～東側を半円形に取り巻くように8基の古墳が造られている。

第24号古墳は径30m，高さ4mで，墳丘斜面の上位2/3付近までほぼ全面的に葺石が施され，その下端の平坦面には円筒埴輪列がみられる。また，墳丘裾には部分的に列石がみられる。2段築成の墳頂部には3基の埋葬施設が南北に並列して築かれていた。長さ3.5mの竪穴式石室を挟んで，北には長さ3.2mと大型の箱式石棺が，南には長さ1.8m程度の箱式石棺が築かれている。前者は礫床の中央が凹み，割竹形木棺の使用が窺える。円筒埴輪列は，平坦面の外縁寄りにほぼ等間隔に立てられ，墳丘西側には1か所2列に樹立されたところがある。なお，南側の墳丘裾を中心に小型の埋葬施設（箱式石棺・石蓋土坑）11基が築かれている。

小型の古墳は径8～16mの規模で，第20～23・25号古墳は周溝が廻る。西側の3基（第23・25・26号古墳）と東側の2基（第21・22号古墳）は墳丘の頂部や裾に2～5基の埋葬施設（箱式石棺・石蓋土坑・木蓋土坑）を設けている。多くは礫床で，石材へのベンガラの塗布や粘土枕の存在などの共通点がある。一方，第24号古墳の南側に存在する第20・31・32号古墳の3基は築造時期が最も新しい一群で，先ず横穴式石室（長さ6.7m）をもつ第20号古墳が築造され，近接した時期に排水溝をもつ箱式石棺を埋葬施設とする第32号古墳が造られている。次いで長さ4.4mの横穴式石室を埋葬施設とする第31号古墳が，最後に第20号古墳石室の追葬と併行した時期に周辺の小型箱式石棺（ＳＫ２・３，第24号古墳ＳＫ５）への埋葬が行われている。これら第20号古墳周辺の埋葬施設（横穴式石室・箱式石棺）には敷石（＋礫床）の存在や須恵器の副葬などの共通点がみられる。なお，この第20号古墳の南側には古墳の築造に先行する土坑墓（第20号古墳ＳＫ４）や掘立柱建物跡2棟（ＳＢ２・３）が存在する。

遺物の概要　第24号古墳では，墳丘からは90本以上の円筒埴輪と土師器・高杯など，埋葬施設の箱式石棺からは小型鏡1点や鉄鏃状の鉄器片数点が出土した。小古墳からは墳頂部の箱式石棺から1～3点の小型鉄器（鎌・刀子・斧など）が，また南端の第20・31・32号古墳や周辺の埋葬施設（横穴式石室・箱式石棺）からは須恵器（杯蓋・杯身・高杯・長頸壺など）や鉄釘が出土した。先行する土坑墓からは土師器（複合口縁壺・甕）が出土した。

ま　と　め　今回調査を行った9基の古墳は，その位置関係や埋葬施設の形態や構造，副葬内容の類似性などから強い紐帯をもつ同一の集団によって築かれたと考えられる。その築造時期は，第24号古墳が4世紀末～5世紀初頭頃，南端の第20・31・32号古墳が6世紀末～7世紀前半頃で，そのほかの5基の古墳は4世紀～7世紀頃に築造された可能性が強い。今回の調査は，三次市東部における古墳時代の墓制を知る上で貴重な事例を提供することになった。



第6図　宮の本第20～26・31・32号古墳遺構配置図（1:400）

５　片野中山第９～１２号古墳

所　在　地　三次市吉舎町敷地字中山

位置と環境　矢井川の支流右谷川と片野川に挟まれた川沿いの一帯は水田で，南側には樹枝状に入り組んだ低丘陵が広がっている。本遺跡はこれらの低丘陵の一角，標高 386mの山塊から北に延びる尾根上にある。調査区の標高は 234～225mで，周囲の水田との比高は約 30m。また，遺跡の現状は山林である。

遺構の概要　第９号古墳は径約９ｍ，高さ約 0.9mの円墳で，幅 1.2m，深さ 0.4mの溝が２／３週ほど巡っている。墳丘は 0.5mほど盛土があり，古墳の中央部分に 2.4m×0.8mの長方形の埋葬施設がある。また，墳丘外の東斜面と調査区北端部で円形土坑（ＳＫ５・ＳＫ６）を検出した。８世紀頃のものと思われる。

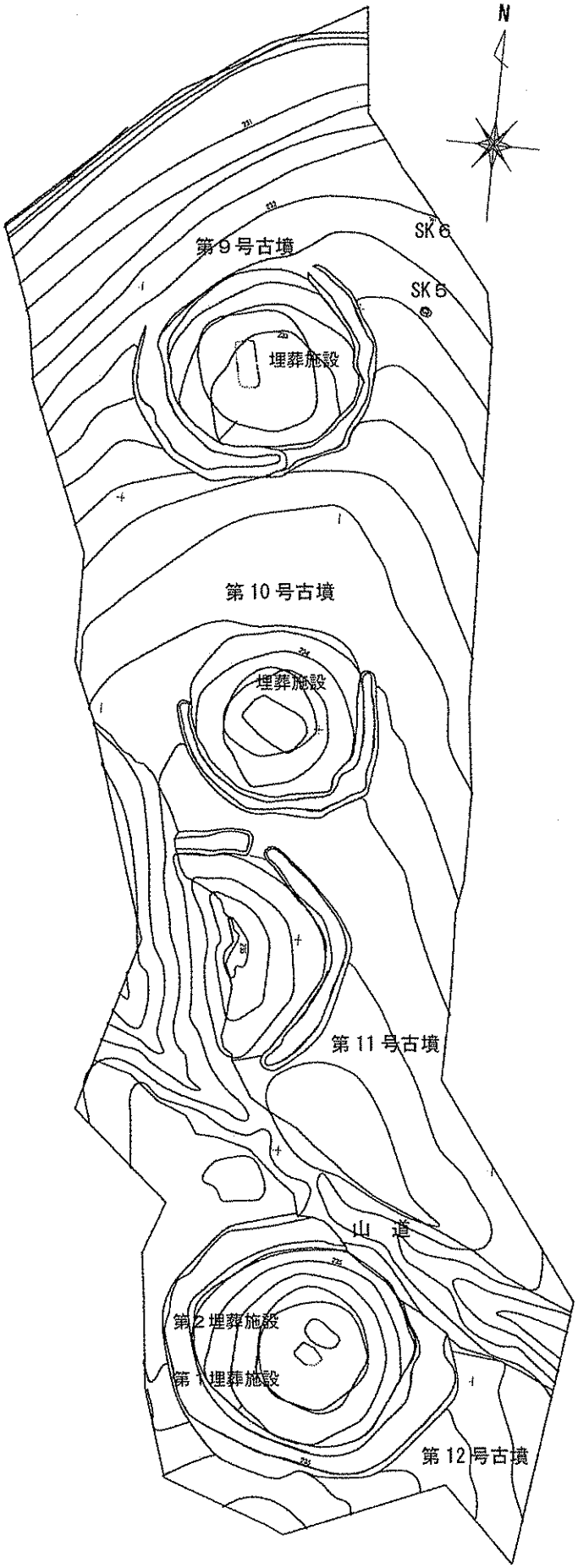
第 10 号古墳は径 8.1m（南北）～7.8m（東西），高さ 0.7mの円墳で，幅 1.2m，深さ 0.4mの溝が２／３周ほど巡っている。墳丘は 0.4mほどの盛土があり，古墳の中央部に 2.1m×0.7mの長方形の埋葬施設がある。

第 11 号古墳は西側部分が土取や山道による掘削で消滅していた。溝が幅 1.5m，深さ 0.5mで巡っている。溝の続き具合や墳丘の状態等などから直径約 10m，高さ約 1.5mの円墳であったと思われる。埋葬施設は発見できず，すでに破壊されていたと思われる。

第 12 号古墳は径 9.7m（南北）～10.0m（東西），高さ 1.8mの円墳で，幅 1.5m，深さ 0.5mの溝が巡っている。墳丘は 1.2mほどの盛土がある。墳丘中央部にはほぼ並行して東西方向を主軸とする埋葬施設が２基あり，南側が第１埋葬施設，北側が第２埋葬施設である。第１埋葬施設は 1.3m×0.8mの長方形の土坑墓で短辺側に石材を対峙するように配している。第２埋葬施設は 1.6m×0.9mの長方形の土坑墓である。いずれも木棺であったと思われる。

遺物の概要　第９号古墳の埋葬施設から鉄鏃と有孔砥石が出土した。このほかに墳丘西側の周溝底面から須恵器（杯身，杯蓋）が出土した。また，墳丘外の円形土坑から須恵器（杯蓋），土師器（甕）が出土した。第 10 号古墳の埋葬施設から鉄製刀子が出土した。第 11 号古墳では遺物は周溝上面から土師器椀，用途不明鉄製品が出土した。第 12 号古墳では南東側周溝の中位から上位にかけて，須恵器（壺）が出土した。

ま　と　め　今回は古墳群を構成する一つの小群を調査した。調査の結果は，①これらの小群が埋葬形態としては概ね木棺を主としていること，②第 11 号古墳や第 12 号古墳に比べると第 9 号古墳や第 10 号古墳は低墳丘となっており，均質的に見える小群も細分可能であること，③占地上の有利な場所では墳丘が高く，斜面の傾斜につれて墳丘が低くなっていること，④出土遺物からは 5 世紀末から 6 世紀の前半頃の古墳であること，以上のことから，各古墳間の造営にそれほどの時間差があるとは考えにくいが，あえて時間序列を設定すると南側の第 12 号古墳→北側の第 9 号古墳へとなりそうである。これは本地域における横穴式石室を埋葬施設として導入する直前の状況を示していると思われる。



第７図　片野中山古墳群測量図（１：300）

第１０号古墳調査風景

第９～１０号古墳調査風景

第１２号古墳調査風景

6　右　谷　遺　跡

所　在　地　三次市吉舎町敷地字中山

位置と環境　矢井川の支流右谷川と片野川に挟まれた川沿いの一帯は水田で，南側には樹枝状に入り組んだ低丘陵が広がっている。本遺跡はこれらの低丘陵の一角，標高386mの山塊から北に延びる尾根の東側斜面にある。調査区の標高は234～225mで，周囲の水田との比高は約30mで，遺跡の現状は山林であった。

遺構の概要　竪穴住居跡１（ＳＢ１），掘立柱建物跡１（ＳＢ２），土坑４（ＳＫ１～４）などを検出した。時期は，古墳時代終末頃～奈良時代頃（７世紀前半から８世紀前半）である。

ＳＢ１は調査区の南端中央部で検出した竪穴住居跡である。調査区の外に遺構の一部があるので，詳細については不明な部分が多くあるが，現状では一辺約５ｍの方形竪穴住居跡で，新旧の２時期があり，新時期に拡張している。調査区境に赤変した部分があり炉跡の可能性がある。住居跡の形に添って幅0.2m，深さ0.15mの壁溝が巡っている。

ＳＢ２は調査区南側のほぼ中央部の谷状地形の斜面に位置する。掘立柱の規模は２間×２間（4.7m×3.6m）で，北側に掘削部分があり，掘削部分の底面には一部溝が回っている。

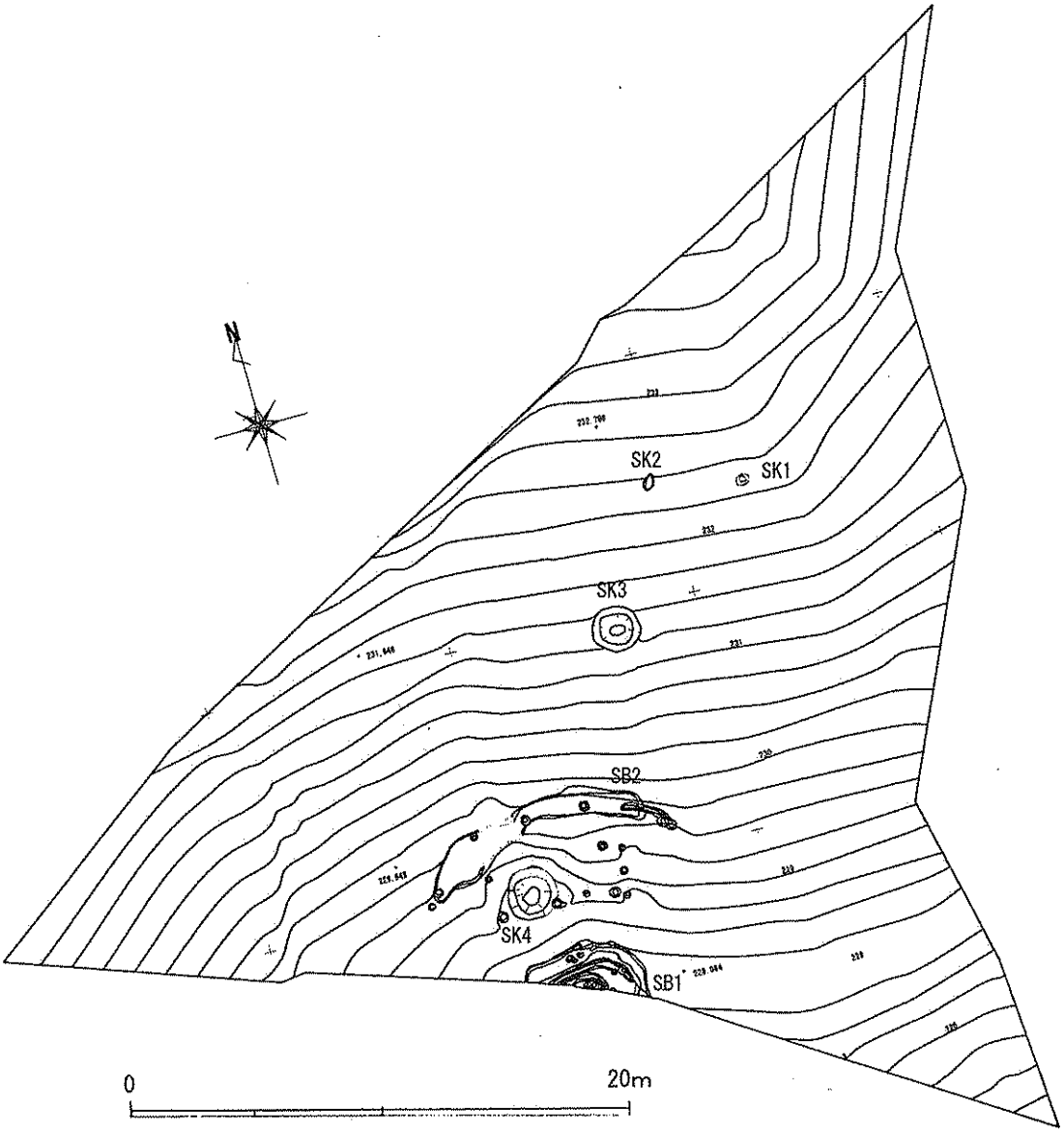
ＳＫ１は直径約0.4mの円形の土坑と思われ，掘方ほぼぎりぎりに須恵器壺が直立して据え置かれていた。さらにこの壺の上に須恵器杯身で被せ，杯身の上には平らな礫が乗っていた。形態等から蔵骨器と思われる。

ＳＫ３は調査区の中央やや東側の斜面にある。東西1.8m×南北1.6m，深さ1.7mの平面形が長楕円形の土坑である。坑底面は0.7m×0.5mで検出面に比べるとかなり狭まっている。

ＳＫ４はＳＢ２と空間を共有する斜面にある。調査の前に遺構の１／２が無くなっていたが，平面形は2.3m×1.8m（推定）の楕円形で，土坑検出面から0.5mのところで，1.5m×1.1mの隅丸長方形になり，以下窄まりながら底面に下りる。土坑底面は中央部が若干くぼむがほぼ平坦で，上面から坑底面までの深さは2.1mであった。

遺物の概要　ＳＢ１から土師器が，またＳＢ２の周辺やＳＫ１から須恵器片が出土した。

ま　と　め　今回の調査では住居跡などの居住に関係する遺構とＳＫ１のような埋葬に関係すると思われる遺構を確認した。時間的な変遷を考慮すれば居住地としての利用が廃れた後で墓地として再利用されているようである。また，ＳＫ３やＳＫ４のように楕円形の深い土坑もあり，その性格については不明な部分が多いが，底面から湧水してくる現状と使用時の条件が同じであれば，何らかの水に関連する施設と考えられる。



第８図　右谷遺跡遺構配置図（１：300）

ＳＫ４調査風景

ＳＢ１調査風景

7　曲第２号古墳

所　在　地　庄原市口和町金田字本谷

位置と環境　曲古墳群は，西城川の支流湯木川西側の北から南に延びる丘陵上に位置する。曲第２号古墳の標高は約300mで，周囲の水田との比高は約80mである。

遺構の概要　本古墳群はこれまで２基確認されていたが，今回の発掘調査によって新たに３基の古墳を確認し，曲第３～５号古墳と名付けた。いずれも小型の円墳で，墳丘は削平されて残っていない。

第２号古墳は，直径東西約12m，南北約13.5mの円墳で，高さ約1.5mである。東側を除き幅１～３m，深さ約１mの溝が巡っている。周溝の西側部分が広く，深く掘り込まれていることから，土坑があった可能性が高い。埋葬施設は土坑で，北端と南端に石が並べられており，長さ3.5m，幅0.8mである。土坑内から幅約0.4mの木棺の痕跡が確認された。なお，埋葬施設北西側は攪乱を受けている。

第３号古墳は，第２号古墳の北西約１mに位置する直径約６mの円墳である。埋葬施設は箱式石棺で，内法は長さ1.1m，幅0.2～0.3mと小型である。古墳の東半部に幅0.3～1.5m，深さ0.15～0.8mの溝が巡っている。北東側周溝内に土坑が掘られていた。

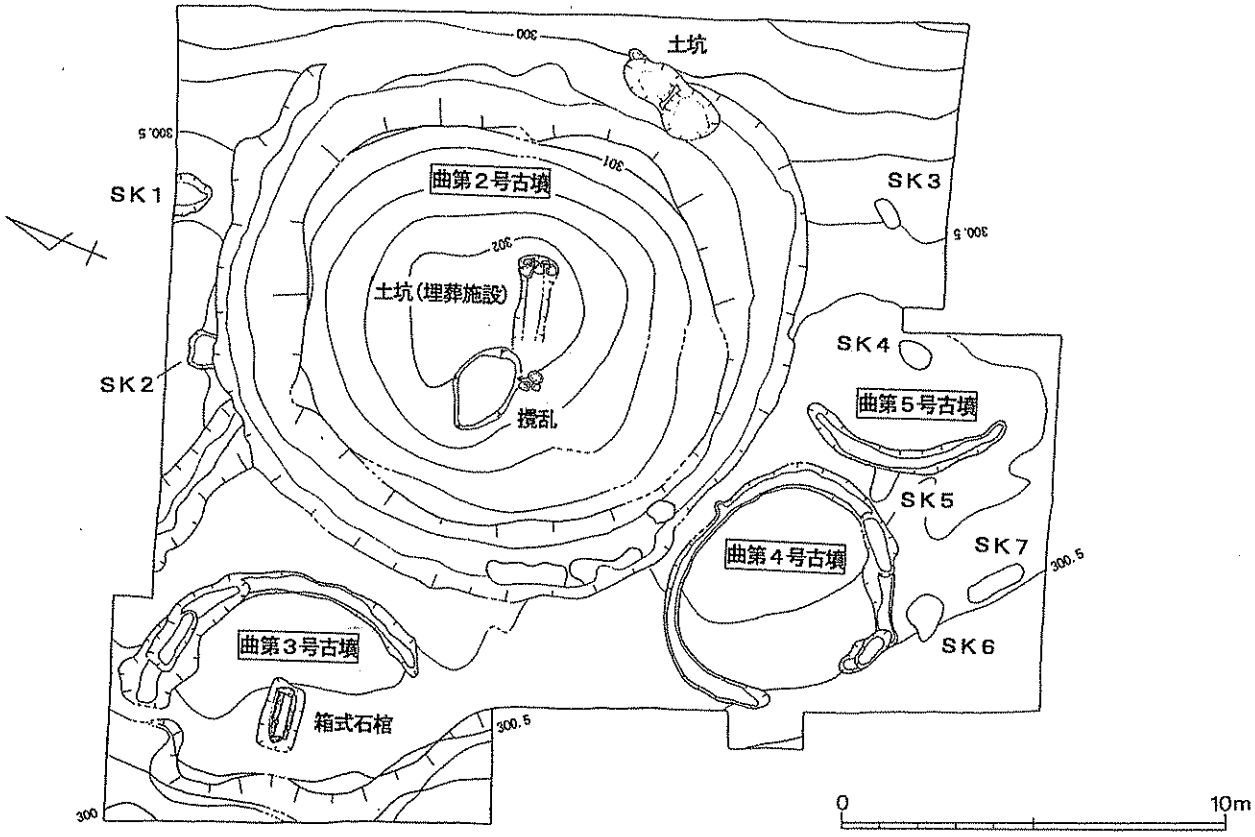
第４号古墳は，第２号古墳の南西約0.5mに位置する直径約5.5mの円墳である。第２号古墳と接する北東部は墳形がいびつになっており，この部分では直径が約4.6mと短くなっている。埋葬施設は不明である。西部を除いて，幅0.3～0.7m，深さ0.1～0.6mの溝が巡っている。南側周溝内で土坑を検出した。

第５号古墳は，第２号古墳の南約0.8m，第４号古墳の南東約0.5mに位置する古墳である。西側にしか周溝がなく，溝は全長約６m，幅0.3～0.8m，深さ0.3～0.7mである。埋葬施設は不明である。

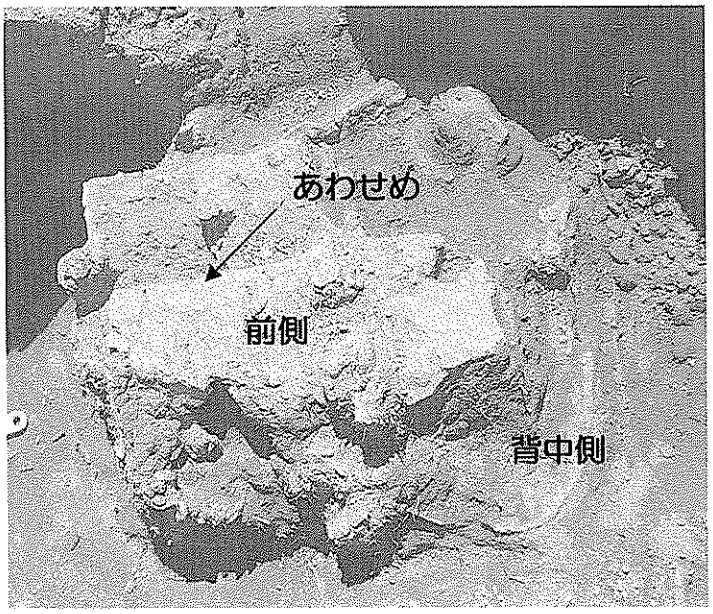
遺物の概要　第２号古墳の埋葬施設から短甲（横矧板鋲留短甲）・刀・短刀が出土した。検出状況から短甲は木棺の上に置かれ，刀・短刀は木棺内の副葬品であると推察される。また，西側周溝内の土坑と推定される部分から須恵器杯・高杯，土師器高杯・甕等の土器がまとまって出土し，その下部から斧などの鉄器も出土した。赤色顔料が入れられた土師器甕もあり，土器集中部分の南端でも赤色顔料が見られた。

第３号古墳の周溝内土坑底部から管玉４点，小玉４点が出土した。また，墳裾付近から須恵器杯身片と鉄製楔が出土した。第４号古墳の周溝上部から底部穿孔の須恵器（はそう）が出土し，周溝内土坑から勾玉１点，管玉４点が出土した。なお，第５号古墳からは遺物は出土していない。

ま　と　め　第２号古墳周溝内から一括して出土した土器には５世紀後半のもののほか，５世紀末のものが見られることから，第２号古墳は５世紀末に築造されたものと推測される。また，第２号古墳の埋葬施設からは短甲が出土しており，被葬者の性格を示す貴重な資料となった。第２～４号古墳の３基は，周溝内に掘られた土坑の底面から遺物が出土しており，周溝内にも埋葬施設が存在した可能性が考えられる。



第９図　曲第２～５号古墳遺構配置図（１：200）



第２号古墳出土短甲

8　瀬戸越南古墳

所　在　地　広島県三次市向江田町字瀬戸越

位置と環境　瀬戸越南古墳が位置する丘陵は，南流する国兼川が馬洗川と合流するため大きく西に流れを変える東側にあり，丘陵頂部（標高約 312m）から南に派生する丘陵上には，西から瀬戸越古墳群（12 基），箱山古墳群（９基），野稲北古墳群（３基），野稲南古墳群（11 基）などが立地している。これらの古墳群の内，平成 18 年に箱山第３～６号古墳，平成 14 年に野稲南第８～11 号古墳が発掘調査されている。これらの古墳群の前面に広がる水田の東側の谷には国史跡寺町廃寺跡，丘陵頂部には茶臼山城跡が築かれている。瀬戸越南古墳は，瀬戸越古墳群中最南端の第 12 号古墳から東へ約 30m，約７m下方の瀬戸越古墳群の立地する丘陵から南下しながら派生した小丘陵の先端部に立地している。水田との比高は約 38mである。

遺構の概要　本古墳は，調査前に箱式石棺が露出しており，事前の試掘調査からも小規模な円墳（径７m）であることが想定されていた。調査の結果，背面を東西 12m，現墳頂部からの幅６m，深さ 0.8mの溝によって区画した径 12～13mの古墳で，墳丘には葺石が施されていることを確認した。葺石は墳丘の南側部分が二段築成となっており，二段目の径は約 11mである。葺石は墳丘西側約 1/4 には残っておらず墳丘が急傾斜であることから流失したと思われる。

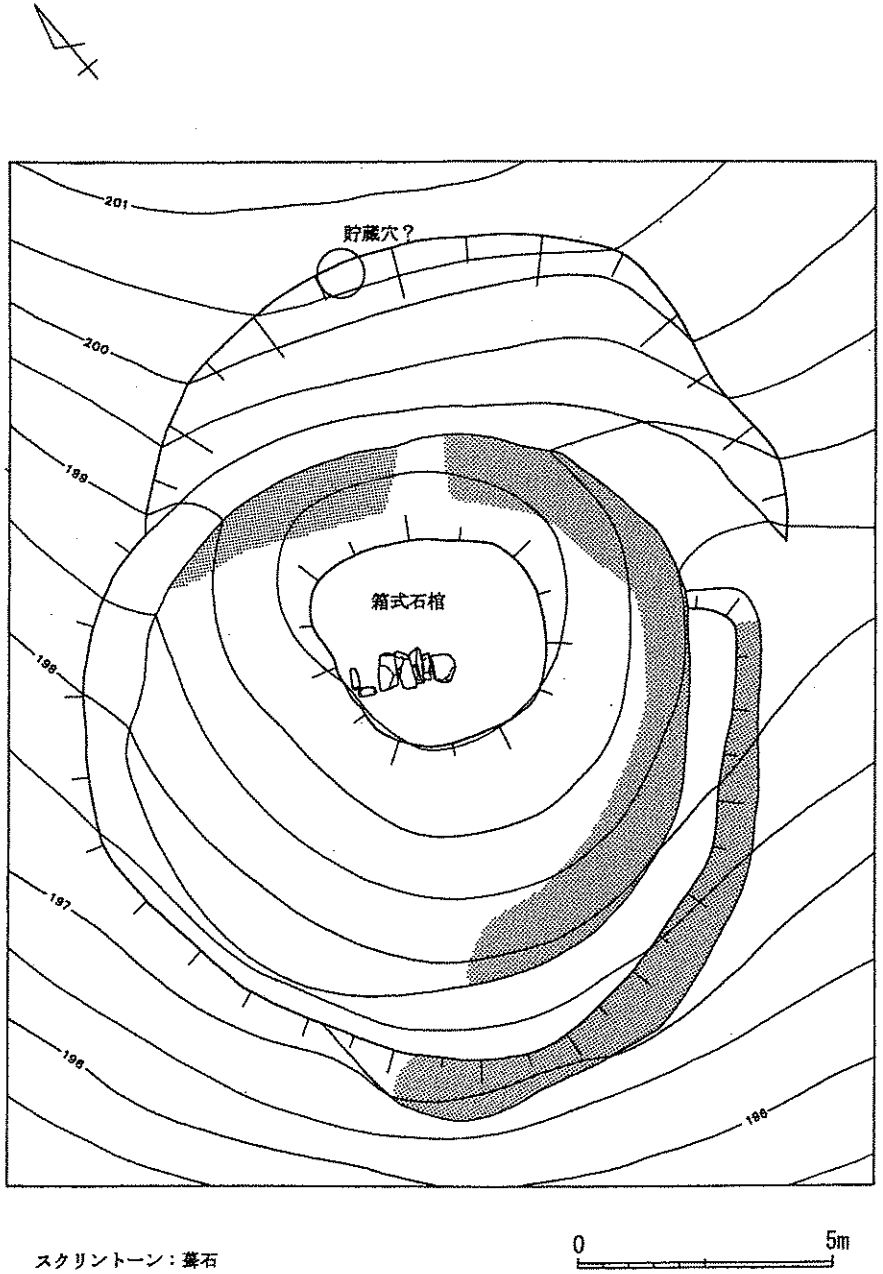
葺石の構築は，墳丘の裾部に一辺約 30cm の不定形の石材を丁寧に並べたのちに上部に積んだことが窺える。盛土は旧表土面から現墳頂まで 0.8mであるが，石棺が覆われていた部分を復元すると 1.5m以上と推定でき，南側の墳裾からの高さは 3.3m以上，北側は１m以上となる。

箱式石棺は墳頂平坦面の中央付近で東西方向に構築されており，蓋石は後世の撹乱を受けて本来の位置ではなく適当に並べ換えたものである。両側石は６枚の石材を縦長に使用し，頭位と考えられる西側小口で１枚，東側は上部に側石と高さを揃えるために小型の石材を足して２枚としている。内法の幅は西側で 0.45m，東側は 0.25m，長さは 1.8mで遺物は出土していない。掘方は石材を組むための最小限で済ましたと考えられ，規模は，幅が西側で 0.75m，東側で 0.45m，長さは 2.1mである。石棺の床下から鉄滓が３点出土している。

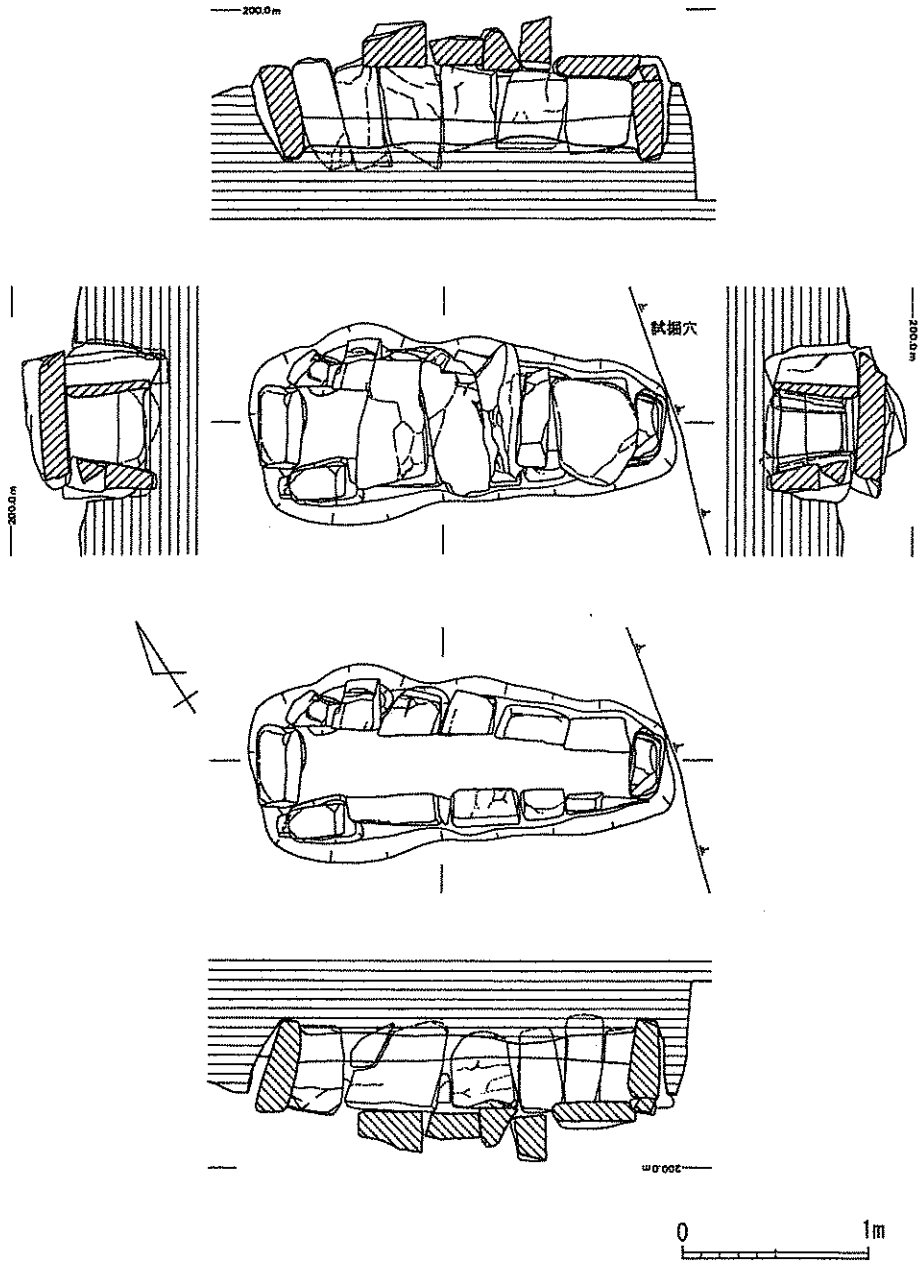
遺物の概要　遺物は表土層から弥生中期の塩町式土器片，葺石面までの盛土流失土と溝下層から須恵器甕片，土師器甕片，手捏ね椀が出土している。なお，鉄滓（炉底滓含む）が墳丘西側の裾周辺の流失土からコンテナ２箱分出土しており，さらに石棺の床下からも出土していることから被葬者が鉄生産に何らかの関わりがあったものと考えられる。

ま　と　め　古墳の築造時期は土師器の形態から５世紀後半から６世紀頃と思われる。

本古墳の立地するのは国兼川の東側から三良坂町にまたがる地域で，南側に馬洗川を望む丘陵上には，古墳が分布する密度が非常に高い地区のひとつとして知られている。最も西側に単独で立地する瀬戸越南古墳の調査成果は，この地域の古墳時代の社会の様子を知る上で貴重な資料を提供するものと考えられる。



第10図 瀬戸越南古墳測量図



第11図 瀬戸越南古墳箱式石棺実測図

９　稲干場第２～４・９号古墳

所　在　地　　庄原市口和町大月

位置と環境　　稲干場古墳群は，標高約 418mの山塊から北西方向に延びる丘陵先端付近に位置する。調査を行った４基の古墳は，ほぼ南西に派生する標高約 310～325mの尾根上に，第２・３・４号古墳が，その尾根の北側で西に延びる標高約 321mの尾根の先端に，第９号古墳が立地する。

遺跡の概要　　第２号古墳は，直径約９ｍ，高さ約 0.8mの円墳で，上端幅約 1.5m，深さ約 0.8mの溝が，墳丘の周囲をほぼ巡る。埋葬施設は，東西方向に長軸をもつ，平面規模が約３ｍ×1.5ｍ，深さ約 1.3mの土坑を１基確認した。また，調査区の南東部で，３基の土坑と，弥生時代の住居跡を１軒確認した。

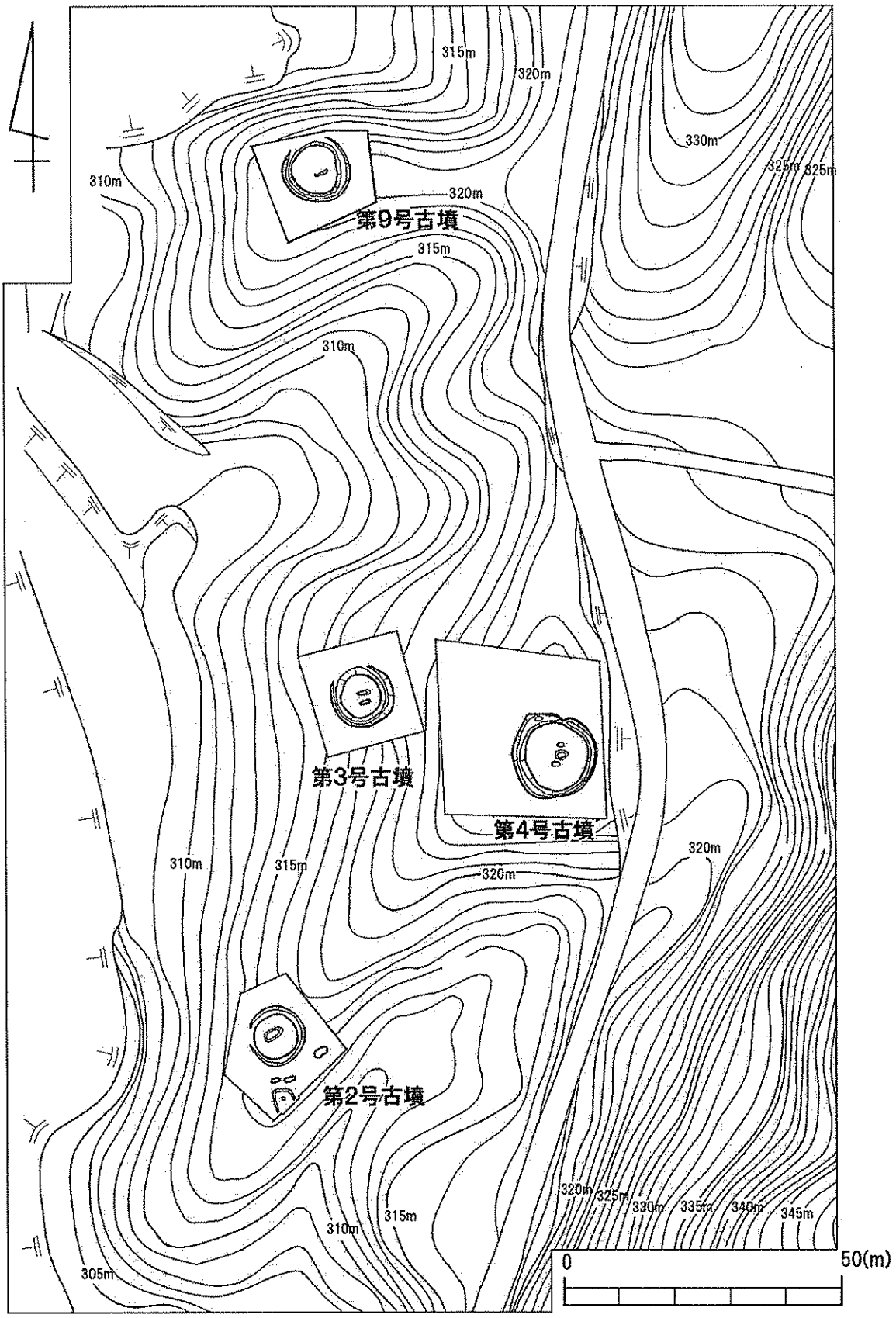
第３号古墳は，直径約７ｍ，高さ約 1.4mの円墳で，上端幅約 1.7m，深さ約 1.4mの溝が，墳丘の周囲を４分の３ほど巡る。埋葬施設は，東西方向に長軸をもつ土坑を２基確認した。北側の土坑１の平面規模は約 1.5m×0.5m，深さ 0.5m，南側の土坑２の平面規模は約 1.5m×0.5m，深さ約 0.2mである。調査区北西部で北西から古墳に延びる溝状遺構を確認している。

第４号古墳は，直径約 12m，高さ約 1.5mの円墳で，上端幅約１ｍ，深さ約 0.6mの溝が墳丘の周囲を巡り，北部で一部途切れている。埋葬施設は，墳頂部に東西方向を長軸とする３基の土坑を確認した。北側の土坑１の平面規模は，約 1.5m×0.5m，深さ約 0.5m，南側の土坑２の平面規模は，約 1.5m×0.5m，深さ約 0.5m，中央の土坑４の平面規模は，約３ｍ×1.5m，深さ約 0.5mである。溝の北西部底面で土坑３を確認した。古墳北西部の溝外に，平坦地がある。

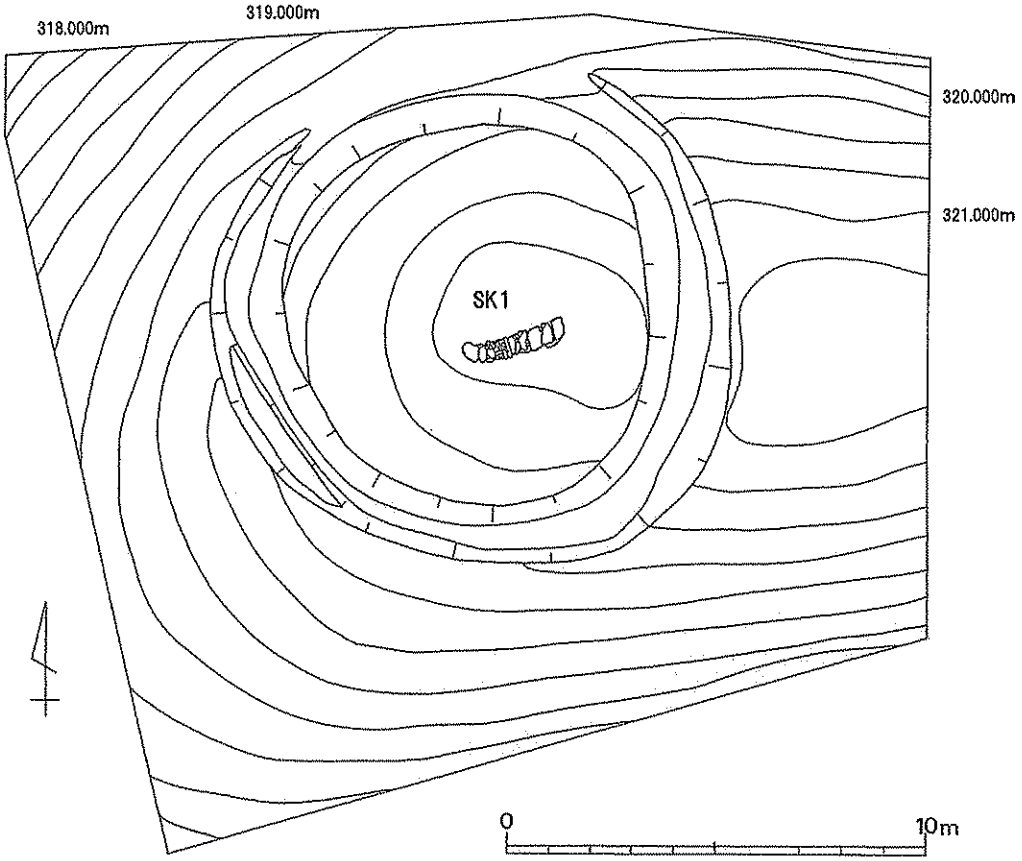
第９号古墳は，直径約 10m，高さ約 0.7mの円墳で，墳丘の周囲には，上端幅約 1.3m，深さ約 0.6mの溝が約４分の３巡る。埋葬施設は，東西方向を長軸とする平面規模が約 2.3m×0.5m，深さ約 0.5mの箱式石棺である。

遺物の概要　　第２号古墳の埋葬施設より管玉１点が出土した。住居跡や土坑から弥生土器や砥石が出土している。住居跡周辺から石器が出土した。第３号古墳の土坑１上面から須恵器片が出土している。また，溝内より須恵器の杯身と高杯が出土した。この調査区内からは楔形石器や砥石，鉄滓が出土している。第４号古墳の土坑１から土師器片，土坑２上面から須恵器の破片，土坑３から須恵器の杯身・杯蓋・小型短頸壺，用途不明の鉄器等が出土した。墳丘下で縄文土器片が出土した。第９号古墳の溝内より土師器，砥石，鉄鏃が出土した。この調査区内から数点の鉄滓，縄文時代晩期の土器片が１点，寛永通宝が１点出土している。

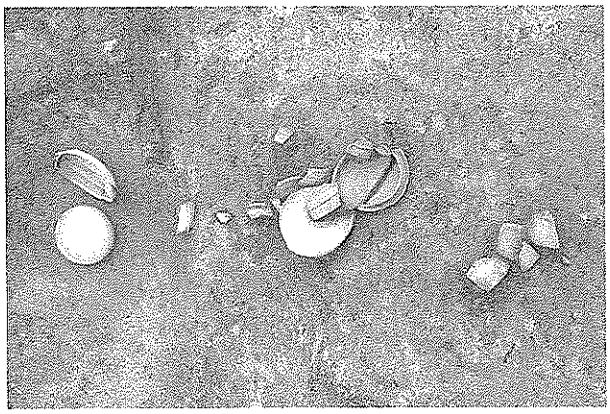
ま　と　め　　今回の調査によって，６世紀前半頃の古墳造営の様子を明らかにすることができた。また，縄文時代から江戸時代まで，口和町大月周辺に生きた人々の足跡を辿ることもできた。今回の調査成果は，今後、口和町大月地域に生きた人々の姿を解き明かす上で，貴重な情報を提供するものである。



第 12 図　稲干場第２～４・９号古墳遺構配置図（Ⅰ：1000）



第１３図　稲干場第９号古墳測量図



第４号古墳　土坑３　須恵器出土状況

弥生時代の住居跡

１０　上陣遺跡

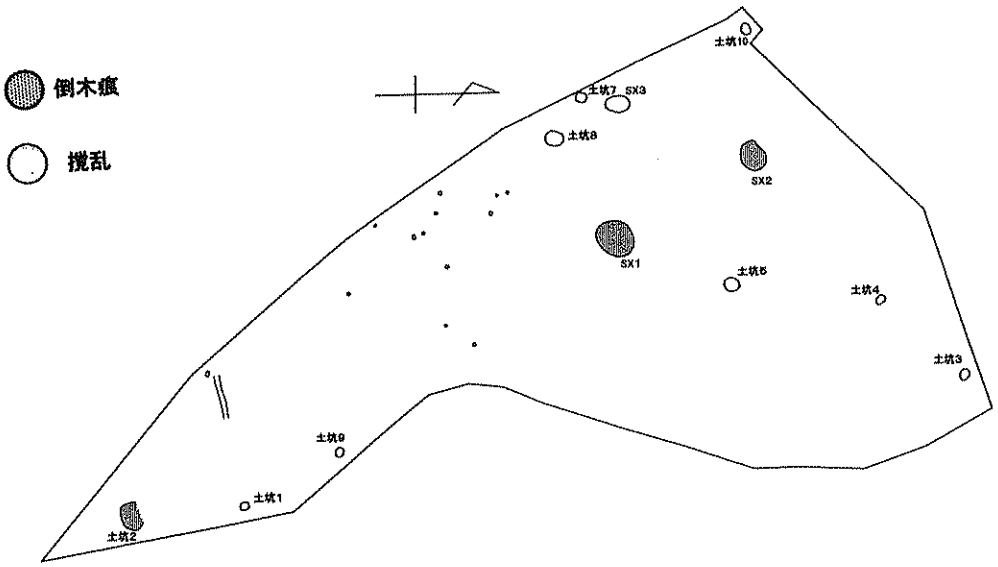
所　在　地　三次市向江田町字上陣

位置と環境　上陣遺跡は丘陵の北東側斜面上に立地する。国兼川はこの丘陵の東麓から南麓に沿って西へ流れ，馬洗川に合流する。なお本遺跡の斜面下には国兼川へと注ぎ込む小河川・菅田川が南流しており，その菅田川を中心に水田が営まれている。調査区は標高が 209～218mの位置で，周囲の水田との比高は約 40mである。

遺構の概要　土坑９基，性格不明の遺構３基（ＳＸ１～３），ピット十数基を確認した。確認した土坑（ＳＸ３を含む）は小型と大型の２種類に大別される。小型の土坑（土坑１・３・４・７・９・10）は調査区中央の谷部を除き調査区のほぼ全域に位置する。埋土に炭化物を含み，底面や壁面の一部が熱を受け赤変しているものもある。平面形は楕円形（土坑１・９），隅丸方形（土坑７），不整楕円形（土坑 10），不整隅丸方形（土坑３），不整形（土坑４）と多様であるが，規模は１～1.3m×0.8～１m程度とほぼ同じである。大型の土坑（土坑５・８，ＳＸ３）は調査区北側の北東へ延びる尾根上に位置する。いずれも埋土に炭化物をほとんど含まない。平面形は不整楕円形（土坑５），楕円形（ＳＸ３），隅丸方形（土坑８）である。規模は 1.9～2.6m×1.3～1.8m程度とややばらつきがあるが，深さは 40～45 cm程度である。土坑５の底面は平坦で，一部にオーバーハングが認められ，貯蔵穴の可能性が考えられる。土坑８，ＳＸ３は底面中央には不整形の落ち込みがある。土坑８，ＳＸ３は，その形状から墓坑の可能性が考えられる。なお，土坑２，ＳＸ１・２は倒木痕の可能性が高く，土坑６は欠番である。

遺物の概要　遺物は小型土坑，大型土坑各１基（土坑１・８）で出土した。出土遺物は土師器・甕で，時期は６世紀前半頃と考えられる。

ま　と　め　今回の発掘調査では６世紀前半頃の土坑を確認した。遺跡の立地は丘陵斜面上で，周囲の水田との高低差もかなりある。また住居跡が認められず，遺物もほとんど出土していない。このことから，本遺跡は遺構の密度の少ない集落の周縁部にあたり，一部は墓域として利用した可能性が考えられる。



第１４図　上陣遺跡遺構配置図（１：800）　0　20m

１１　大平遺跡

所　在　地　三次市後山町字大平

位置と環境　大平遺跡は，三次市街地の北側に位置する遺跡で，西城川の一支流の小河川が形成した狭小な可耕地を臨む南北に延びる標高約 320mの平坦な丘陵尾根上に位置する。東側にある水田面との比高は約 50mである。

調査の概要　今回の発掘調査では，弥生時代後半から古代にかけての７軒の住居跡や箱式石棺を埋葬施設とする円墳１基を検出した。

住居跡には多角形と考えられる住居跡（SB1）と隅丸方形の住居跡（SB2～７）とがある。

SB1 は焼失家屋で，SB6 によって床面積の約半分を失っているものの，屋根材などの炭化材や焼土を検出した。覆土から弥生時代後期後半の土器が出土した。

SB２は一辺約 5.5mの住居跡で，焼失家屋である。主柱穴は４本で，西壁の中央付近に造り付けのカマドがある。覆土内からは土師器や須恵器が少量出土した。

SB３は一辺約３ｍの住居跡である。規模が小さいことなどから，通常の住居とは考えにくい。出土遺物もほとんどない。

SB４は調査区南端付近で検出した一辺約６ｍの住居跡で，南側は斜面にかかることから流失している。住居跡の東壁中央付近には造り付けのカマドがあり，焚口に角礫を立てている。主柱穴は４本で，床面から土師器や須恵器が出土している。

SB5 は一辺約 4.5mの住居跡で，残存状況は良好とはいえず，床面から主柱穴を検出することはできなかった。覆土内から牛角状の把手の付く甑形土器などが出土した。

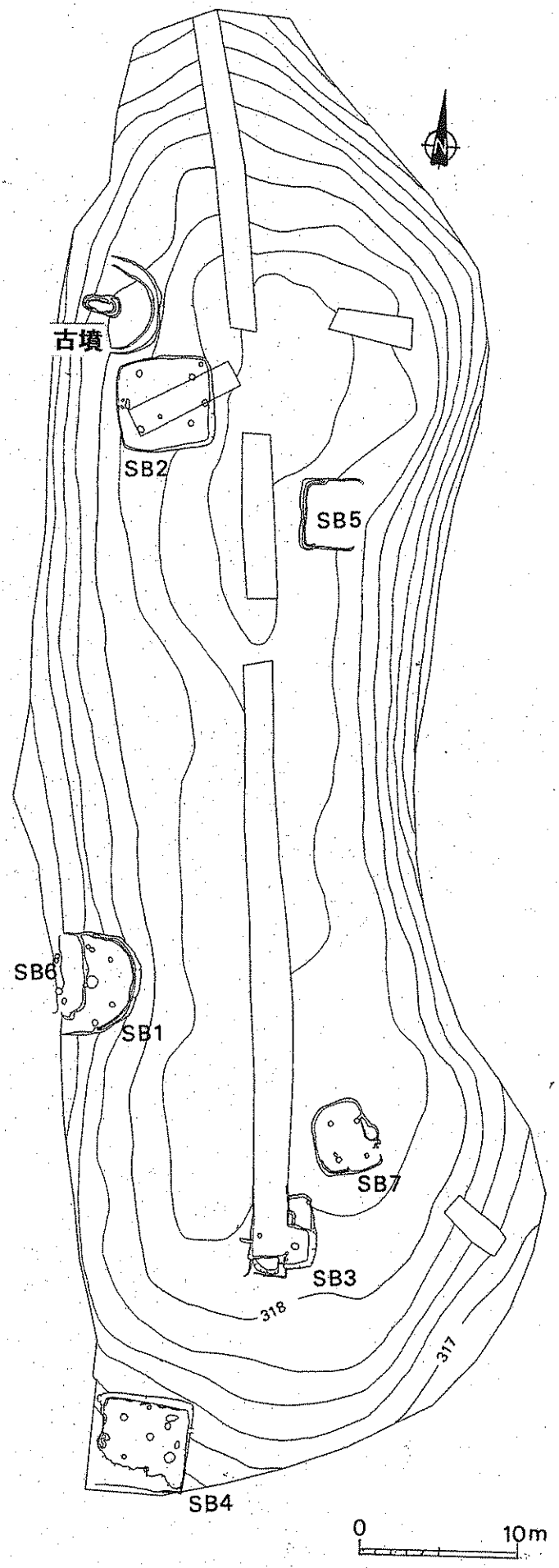
SB６は SB１を切って作られた一辺約５ｍの住居跡で，その大半は後世の削平で失われていた。柱穴は２本確認したが，その配置状況から本来は４本柱であったと考えられる。また床面からは須恵器の杯蓋や高台の付いた杯身などが出土した。

SB７は SB３の東側で検出した一辺約４ｍの住居跡で，東壁の南隅から造り付けのカマドを検出した。主柱穴は４本で，若干の土師器片・須恵器片が出土した。

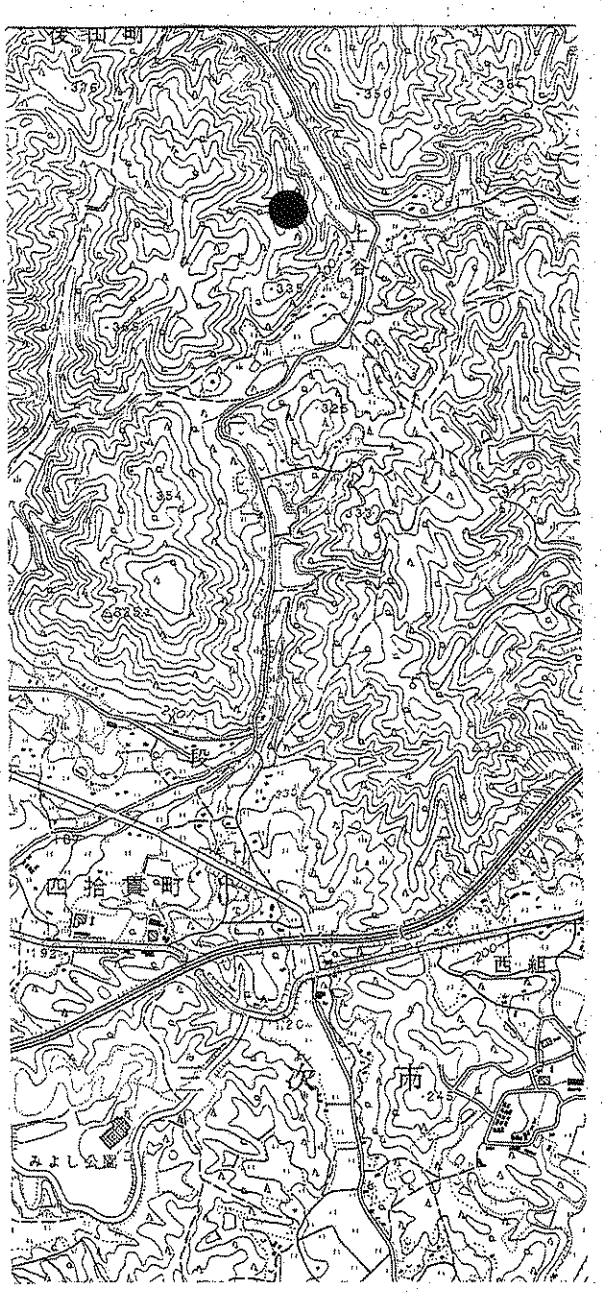
古墳は調査区の北半部で確認した。直径は約５ｍ，斜面上方の東側には幅約 40 ㎝の周溝が「C」字状に廻る。埋葬施設は箱式石棺で，内法の規模は長さ約 1.7m，最大幅 40 ㎝の中央部が膨らむ胴張り状を呈する。棺の内部から須恵器の杯蓋や杯身など３点が出土した。

遺物の概要　出土した遺物としては，住居跡からのものと古墳の副葬品などがあり，弥生土器，土師器，須恵器が出土している。このうち，SB６出土の須恵器の杯身は高台が付いており，その形状から８～９世紀にかけてのものと考えられる。また，古墳出土の須恵器は，杯身のたちあがり部が内傾するなどの特徴から６世紀後半頃と考えられる。

ま　と　め　今回の調査では７軒の住居跡と１基の古墳を確認した。本遺跡は中国山間地域における狭小な農業生産基盤を背景として成立した集落跡であり，そこで営まれた人々の生活の一側面を表したものと考えられ，本地域における遺跡のあり方を考える上で貴重な資料となったといえよう。



第16図　大平遺跡遺構配置図（1：400）



第15図　大平遺跡位置図（1：25,000）

１２　若見迫遺跡

所　在　地　三次市三良坂町岡田字若見迫

位置と環境　若見迫遺跡は馬洗川と上下川が合流する付近から南に広がる水田の南端に位置し，南側丘陵の東側尾根上には岡田山古墳群（４基），西側の尾根上には志幸町にまたがって仏谷古墳群（37 基）が立地している。志幸町幸利地区は古代三谷郡の郡衙跡推定地として認識されている。

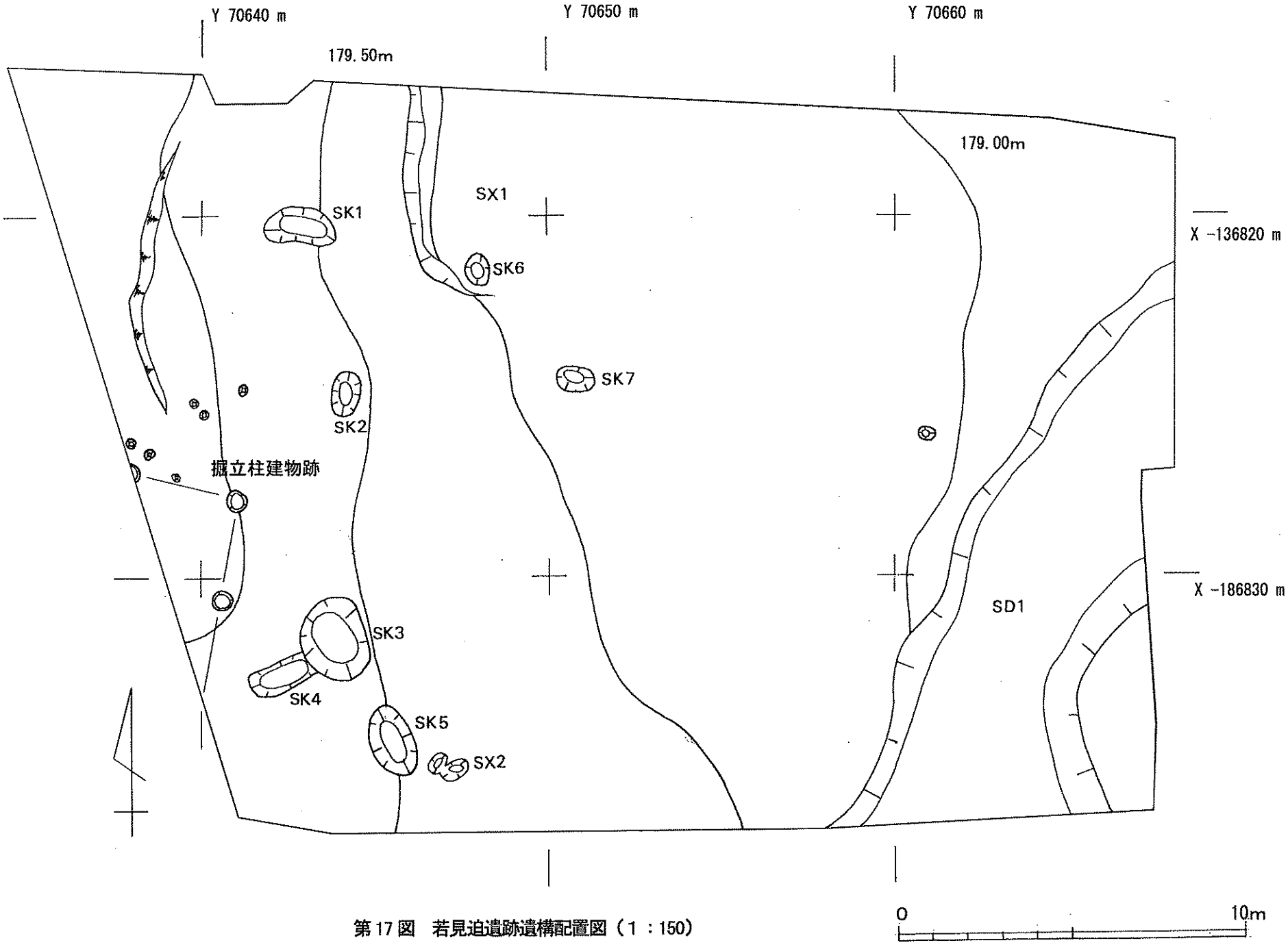
遺構の概要　確認した遺構は，調査区内の西側で柱穴群と土坑７基，溝１条，性格不明の落ち込み２基である。柱穴群の内，径 40cm 前後の柱穴が３基並ぶものは掘立柱建物跡である可能性がある。土坑７基の内，ＳＫ１と５は上面の形態は不整形であるが底面の短辺が 0.45m，長辺が 1.2mの長方形で，ほぼ同一規格の形態と規模であることから墓坑である可能性も考えられる。遺構内からは遺物が細片しか出土していないが，遺構の確認面では平安時代前期（９世紀代）に属する遺物のみ出土していることから，当該期に埋没したものと考えられる。ＳＫ２・６は集石土坑で長径約１m，短径が約 0.7mの楕円形で，坑内上部に川原石や須恵器杯身の破片が落ち込んだ状態で出土している。遺物はＳＫ６から出土しており平安時代前期（９世紀代）頃と思われる。その他の土坑の性格は不明である。東側で南から北側へ流れるＳＤ１を確認した。幅は約８～4.5mで，深さ約 0.4m，長さは調査区内で 14mである。幅が狭くなる地点で東に曲がっている。溝内は砂を含む黒褐色の粘質土が堆積しており，９ｃ代の遺物以外に杭の先，杓子状木製品，刀子状木製品や弥生時代前期の土器片などが出土している。杭は規則性がある状況での出土ではなく他の遺物と同様に流れ込んだ状態であった。遺物の出土状況や底付近は砂礫で砂が堆積していることから自然流路と思われる。

遺物の概要　遺構の確認面上からは，須恵器片・土師器片，平瓦片，板状木製品，曲物の底，自然木，鉛をインゴット状に加工した製品など多種多様な遺物が出土している。遺物の年代が平安時代前期にほぼ集中していることや，遺構面の上層である黒褐色粘質土内からも，遺物・自然木が含まれていることから，災害等で一時期に埋没した可能性が考えられる。

ま　と　め　今回の調査の結果，ＳＤ１を集落の東端とする地点であることが判明した。当地域では平安時代前期の遺跡は確認例が少ないため明確ではないが，鉛のインゴットや瓦の出土などから通常の集落ではなく，幸利地区の三谷郡衙推定地とのなんらかの関連が考えられる。

溝の掘り下げ作業風景

完掘状況（東から幸利方面を望む）

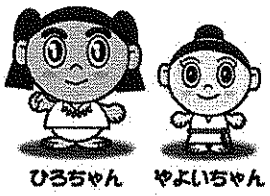


第17図　若見迫遺跡遺構配置図（1：150）

◎主催者の紹介

財団法人広島県教育事業団（事務局　埋蔵文化財調査室）

〒733 - 0036　広島市西区観音新町4 - 8 - 49
TEL（082）295 - 5751　FAX（082）291 - 3951
電子メール：maibun@harc.or.jp
ホームページ：http://www.harc.or.jp



広島県立歴史民俗資料館

〒729 - 6216　三次市小田幸町 122
TEL（0824）66 - 2881　FAX（0824）66 - 3106
電子メール：rmsgakugei@pref.hiroshima.jp
ホームページ：http://www.manabi.pref.hiroshima.lg.jp/rekimin/index.html